

## 航空輸送の安全にかかわる情報の報告（平成 29 年度）（要約版）

## 1. 航空事故・重大インシデントの発生の概況

平成 29 年度において本邦航空運送事業者の運航に伴い発生した航空事故及び重大インシデントは、以下のとおり。

## ○航空事故（2 件）

- 平成 29 年 10 月 22 日、春秋航空日本機（ボーイング式 737-800 型）は、降下中、機体が動揺し、客室乗務員 1 名が負傷（第 2 腰椎骨折）した。
- 平成 30 年 3 月 27 日～3 月 28 日の間（詳細不明）、日本貨物航空機（ボーイング式 747-8F 型）は、サンフランシスコ到着後の点検において機体前部の外板に凹みが確認された。

## ○重大インシデント（5 件）

- 平成 29 年 9 月 5 日、日本航空機（ボーイング式 777-300ER 型）が、東京国際空港 C 滑走路を離陸滑走中、第 1（左側）エンジンに不具合が発生したことを示す計器表示があったため、離陸後、当該エンジンを停止し、引き返し、同空港 A 滑走路に着陸した。
- 平成 29 年 10 月 12 日、日本貨物航空機（ボーイング式 747-8F 型）は、ロサンゼルス空港の駐機場からプッシュバック中、補助動力装置（APU）に火災が発生したことを示す計器表示があり、消火装置が自動で作動し、消火した。
- 平成 30 年 2 月 18 日、日本貨物航空機（ボーイング式 747-8F 型）は、ニューヨークに向け海上を進入中、管制官の指示により着陸滑走路が変更となり、これに従って計器進入を継続していたところ、通常の高さよりも低くなったため緊急の回避操作（機首上げ操作）を行い、進入復行した。
- 平成 30 年 3 月 24 日、ピーチ・アビエーション機（エアバス式 A320-214 型）は、福岡空港に着陸後、前脚タイヤが横を向いた状態で滑走路に停止した。
- 平成 30 年 3 月 29 日、日本貨物航空機（ボーイング式 747-8F 型）は、平成 30 年 3 月 29 日香港に着陸直前、第 3（右内側）エンジンに火災が発生したことを示す計器表示があったため、正常に着陸した後、当該エンジンを停止し、消火装置を作動させた。

## 2. 安全上のトラブル等の発生概況

平成 29 年度においては、航空事故が 2 件、重大インシデントが 5 件及び安全上のトラブルが 1,031 件の合計 1,038 件が発生しています※。

※航空運送事業者から安全上のトラブル等の報告が 1,188 件ありましたが、同一事象に関して複数報告された事案については、ここでは 1 件として計上しています。

表：安全上のトラブルの内容別分類件数<sup>注 1)</sup>

機材 不具合	ヒューマンファクター						回避操作		発動機の 異物吸引に よる損傷	部品脱落	危険物の 誤輸送等 <sup>注 4)</sup>	その他
	運航	客室	整備	地上 作業	製造	その他	TCAS RA <sup>注 2)</sup>	GPWS <sup>注 3)</sup>				
349	90	10	149	94	11	1	175	52	20	8	36	36
	355						227					

注 1) 分類別の件数は、今後の要因分析の進捗により変更されることがあります。

注 2) 航空機衝突防止装置の回避指示に基づく回避操作を表します。

注 3) 対地接近警報装置の指示に基づく回避操作を表します。

注 4) 危険物の漏洩を含みます。

## 3. 安全上のトラブルの評価・分析と今後の対策

第 23 回航空安全情報分析委員会において、平成 29 年度の安全上のトラブル等について審議した結果、それぞれの事案について、関係者により必要な対応がとられており、引き続き適切にフォローアップを行っていくべきことが確認されました。

また、引き続き、安全上のトラブル等の航空安全情報の分析に基づき、機材不具合への対応、ヒューマンエラー防止への取組み、TCAS RA や GPWS による回避操作に係る情報共有を進め、各事案への対応を適確に行うとともに、安全情報の一層の活用により、個々の航空運送事業者の特徴に応じた監査を実施するなど、更なる輸送の安全確保に向けた取組みを進めることが必要であるとの評価を受けています。